

CASBEE-建築(新築)2016年版
鈴与(株)福岡物流センターⅡ期工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-				
1.2 遮音		-	-	-	-				
1 開口部遮音性能		-	-	-	-				
2 界壁遮音性能		-	-	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-				
1.3 吸音		-	-	-	-				
2 温熱環境									
2.1 室温制御		-	-	-	-				
1 室温		-	-	-	-				
2 外皮性能		-	-	-	-				
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-				
2.2 湿度制御		-	-	-	-				
2.3 空調方式		-	-	-	-				
3 光・視環境									
3.1 昼光利用		-	-	-	-				
1 昼光率		-	-	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備		-	-	-	-				
3.2 グレア対策		-	-	-	-				
1 昼光制御		-	-	-	-				
3.3 照度		-	-	-	-				
3.4 照明制御		-	-	-	-				
4 空気質環境									
4.1 発生源対策		-	-	-	-				
1 化学汚染物質		-	-	-	-				
4.2 換気		-	-	-	-				
1 換気量		-	-	-	-				
2 自然換気性能		-	-	-	-				
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御		-	-	-	-				
Q2 サービス性能			0.43						3.6
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-				
1 広さ・収納性		-	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-				
3 バリアフリー計画		-	-	-	-				
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-				
1 広さ感・景観		-	-	-	-				
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-				
3 内装計画		-	-	-	-				
1.3 維持管理		-	-	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-				
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.0	0.50						3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.22						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	耐用年数の長い外装仕上げ材を使用	3.0	0.22						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	-						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.11						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種において、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.22						
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.22						
2.4 信頼性		2.8	0.20						
1 空調・換気設備		3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20						
3 電気設備		3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法	耐震クラス:Aクラス	4.0	0.20						
5 通信・情報設備		2.0	0.20						

3 対応性・更新性			4.2	0.50	-	-	4.2	
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-		
1	階高のゆとり	階高: 6.0m以上	5.0	0.60	-	-		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率: 0.08	5.0	0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-		
			設計床荷重: 15,000N/m ²					
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-		
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.5	
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1	
LR1 エネルギー			-	-	-	-	-	
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.55	-	-	-	-	
4 効率的運用			-	-	-	-	-	
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.50	-	-	3.1	
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水			自動水栓に加えて節水型便器を採用		4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8	
2.1 材料使用量の削減			BCP、ハイベースNEO工法等の採用		4.0	0.11	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体と仕上材の分離が容易である		4.0	0.22	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-		
1	消火剤		-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	GWP値の低い断熱材の採用	4.0	1.00	-	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.50	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-	
2 地域環境への配慮			3.3	0.50	-	-	3.3	
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の設置は無い		5.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮			3.1	0.50	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-		
1	騒音		3.0	0.50	-	-		
2	振動		3.0	0.50	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	4.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		